

# Weekly Market Report

Nov 24, 2020

## 1. 為替相場概況

### 新型コロナウイルスの感染再拡大の影響を注視する展開

#### USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

#### コメント

先週のドル円相場は、新型コロナウイルスワクチン開発報道で急伸する局面もあったが持続せず、週末にかけてドルが売られる展開。週初は、米モデルナ社のワクチンの臨床試験が高い効果を示したとの報道を受け、ドル円は一時105.13円まで上昇も、直後に公表のNY連銀製造業景気指数(11月)が予想対比低調だったこともありリスクオンムードが持続せず、104円台半ばでの推移。週中は日経平均株価の急落、東京都でのコロナ感染拡大、NY公立校の再開鎖等、各地でコロナ再拡大が意識され円が買われ、ドル円は104円割れで推移。週末は7営業日ぶりに小幅反発したものの103.80円前後で膠着して週の取引を終えた。今週初は日本が休日の中、米国総合PMI速報値(11月)が予想対比上振れで5年7カ月ぶりの高水準を付けたことを受け、1週間ぶりに104円台後半に回復した。

今週は26日に米感謝祭を控え買いが薄くなる中で、コロナ対策のヘッドラインにより上下に振れる展開に注意したい。(市場営業部/正村)

#### 今週の経済指標(予定)

日付	イベント	予想
11/25(水)	(米国) 10月耐久財受注(前月比)	0.9%
11/25(水)	(米国) 10月個人消費支出(コア、前月比)	0%
11/26(木)	(米国) 10月新築住宅販売件数	97万件
11/26(木)	(米国) 第3四半期GDP(改定値、前期比年率)	33.2%

#### USD/JPY (5年間)



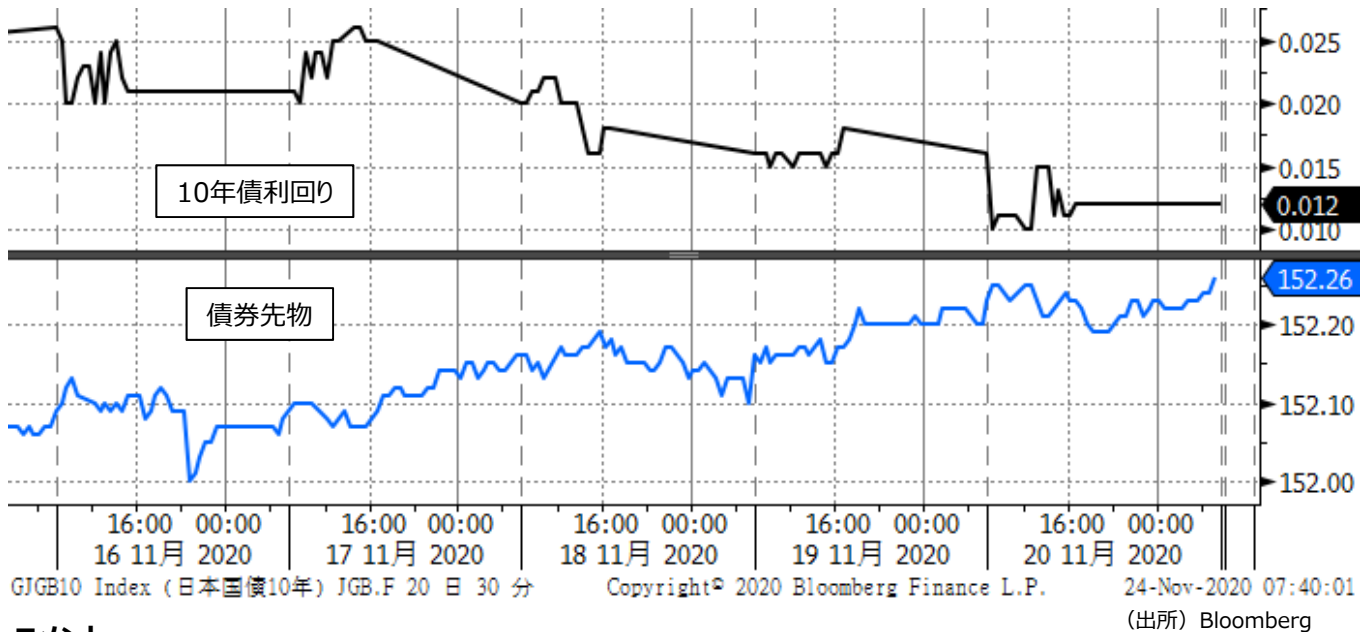
#### 今週のレンジ予想(USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	103.00 - 105.50	ワクチン期待によるドル買いで下値堅い一方で、今週は26日の米感謝祭を控え、積極的な売買は手控えムードか。
山下航平	103.60 - 105.80	感謝祭を挟み市場参加者が少ない中、ワクチン接種報道、米経済指標の改善からドル買いに拍車をかける展開を予想。

## 2. 円金利相場概況

新型コロナウイルスの感染急拡大による景気悪化懸念が金利低下圧力に

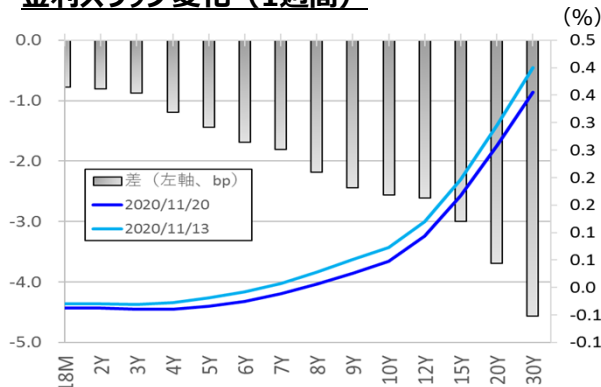
### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



### コメント

先週の10年国債金利は0.010-0.025%のレンジで推移。週の前半には、米国モデルナ社が開発中のワクチンについても95%程度の有効性が確認されたと伝えられたことで、債券先物は一時151.99円の安値を付ける局面もあったが、欧米での新型コロナウイルス感染の急拡大を受けて金利は再び低下方向に転じた。週末に行われた20年国債入札については、平均落札利回りが0.388%と金利の絶対水準を選好する投資家からの需要を背景に強い結果となったが、その後、東京都で過去最多となる新たな新型コロナ感染者数が確認されたことで金利は一段と低下し、週を通じてイールドカーブはブルフラットニングする展開となっている。今週は感謝祭を控えて欧米投資家の動きが鈍る中、新型コロナ感染の急拡大に伴う景気悪化懸念から金利の低下地合いは継続しそうですが、今年度第3次補正予算による国債増発懸念で超長期ゾーンの金利低下は限定的か。水曜日に行われる40年国債の入札については問題なく消化されるとみられる。(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
吉岡博紀	0.00% - 0.05%	新型コロナ感染拡大懸念により、円金利は低下。レンジ下限に迫っており、高値警戒感により更なる低下は進みにくいだろう。
三原大希	▲0.01% - 0.04%	円金利は低下地合い継続。新型コロナの感染が広がりを見せるなか、景気減速懸念からリスクオフ相場が続く見通し。

### 3. 今週のトピックス

#### 新型コロナウイルスを巡る最近の情勢

#### 主要株価指数が最高値更新、背景となったワクチンと今後のポイント

##### 世界的な感染拡大が加速

欧米圏を中心に世界的な新型コロナウイルスの感染拡大が加速している。ジョンズホプキンス大学のデータによると世界の感染者数は5600万人を超え、死者数は135万人を突破した。感染拡大に伴い、10月末以降欧州各国では全国を対象に部分的ロックダウン、米国についても一部地域のロックダウンを導入すると相次いで発表。予断を許さない状況が続いている。

##### 新型コロナウイルス対策ワクチンに進展あり

11月9日、米大手製薬企業のファイザー社と独バイオ製薬企業のビオンテックが共同開発している新型コロナウイルスワクチンについて、95%の確率で有効性が示されていることを発表した。次いで米バイオ医薬品企業のモデルナが開発中のワクチンについても高い有効性が確認されワクチンに対する期待は急速に高まっている。今後、両社はFDA(米食品医薬局) に対してEUA(緊急使用許可)を申請、承認を取得する必要があるが、早ければ12月中にワクチンの接種が開始となる可能性がある。

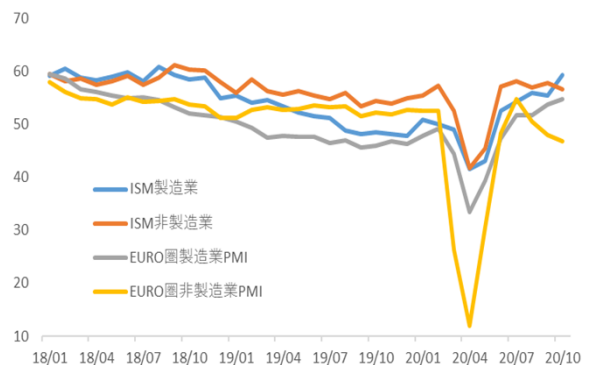
##### 今後の景気及び株式相場の見通し

今後の景気見通しについてだが、中長期的に見るとワクチン開発が進展しているためあまり悲観する必要はない。足元についても、今般欧米圏で再導入されているロックダウン措置は春先のものとは異なり、比較的緩やかなものであるという点を考慮すると、春先のような急激な悪化は想定しにくい。実際、【図2】欧米圏のPMIからもわかるように、センチメントについては春先程の急激な悪化は見られておらず、一時的な回復の鈍化に限られると考える。実際、株式市場では足元の感染が急増しているにも関わらず、ファイザー社やモデルナ社のワクチン報道を受け、主要指数は最高値を更新している。特に、これまでアンダーパフォームしていたいわゆるバリュー株と呼ばれる金融株やエネルギー株の買戻しが加速している。(【図3】参照)ただし、ワクチンについては効果の不確実性が残されているだけでなく、製造には時間を要するため供給制約もあることには注意が必要だ。年内に接種を受けられるのは感染リスクが高い人々(医療従事者等)に限られると考えられる。一般の人々に行き渡るにはその後となり、数か月がかかる見通し。したがって、当面は公衆衛生による感染防止策を維持する必要があり、足元の急激な感染拡大に対する十分な処方箋にはならず、一時的な経済の下押しにも警戒が必要だ。ワクチンに関して今後より多くの情報が出てくる中で市場は一喜一憂することになると考えられるため、引き続きワクチンに関する進捗や、各国の感染状況には注視していきたい。

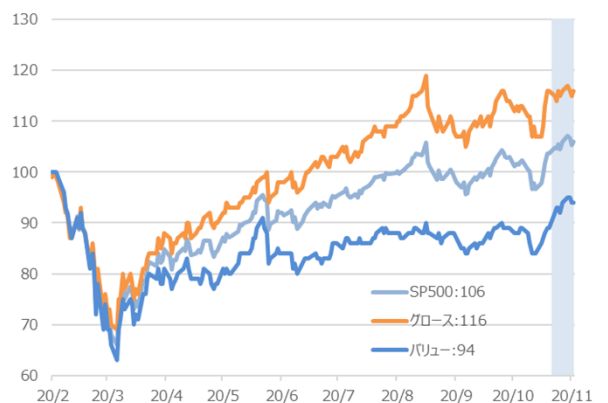
【図1】世界の感染者数の推移



【図2】製造業・サービス業PMI



【図3】S&Pセクター別推移 (2/19=100)



(出所 Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会